

産まれてくれてありがとう

大阪府 大阪教育大学附属天王寺小学校 四年

井本 琉偉

「この〜！」あ、今、ケンカの真っ最中！ その時だ。フォトフレームに映る妹の産まれた時の写真が僕の目に飛び込んできた。なつかしいなあ…。少し笑顔になる。ケンカは一時中断するとしよう。思い返せば六年前：

二〇〇九年六月一日、「フンウィー、フンギヤー」という小さなかわいい泣き声と共に妹が誕生した。この時僕の人生は大きく変わった。一人っ子からお兄ちゃんになったのだ。僕はおばあちゃんに、妹が産まれたと聞いて胸のドキドキが止まらない。幼稚園の帰りに、病院へおばあちゃんと一緒にかけたのを今でも覚えている。あ、だめだ。ケンカの最中：ニヤニヤしている僕がいる。

お兄ちゃんになった日からというものの、妹のおむつがえは、僕の日課みたいになって、もう世話が焼ける焼ける。でも、楽しくて仕方なかった。僕の妹。ほんとにかわいい。

しかし、妹は一才を過ぎるとしゃべるしゃべる。なまいきになるまでそう時間はかからなかった。幼稚園に入ってから僕にさからうようになつてしまったのだ。とうとう

ケンカが毎日の日課になつてしまったのだ。「やめなさい！」ケンカをするとお母さんに怒られるのは必ず僕。くやしくてたまらない。はじめにじやましてくるのはいつも妹なのに：「フンッ！」

でも妹は一日のうちでなまいきにならない時間が必ずある。それは：朝だ。朝に弱く、僕がおんぶをしないと起きれない。そんな妹はやっぱりかわいい。

写真つてすごいなあ。イライラしていた僕の気持ちのスーッとおさまってしまったのだから。僕は妹がいるから毎日さみしくない。たまに一人っ子の方が良かったと言つてしまう事もあるけど、やっぱり妹が大好きだ。そして妹も僕の事が大好きだと言ってくれる。

もうケンカはやめにしよう。
妹も僕もにっこり笑っている。
産まれてくれて、ありがとう！

僕の妹は一生の宝物だ！